

アイデアをつかむために 基礎編(はじめの1冊)

※ 書影は「版元ドットコム」<<https://www.hanmoto.com/>>、新潮社(<https://www.shinchosha.co.jp/>)、
岩波書店(<https://www.iwanami.co.jp/>)から転載しています(2023年9月3日現在)。

音声

『「あ」は「い」より大きい!?—音象徴で学ぶ音声学入門』

(川原 繁人、2017年、ひつじ書房)

「ポケモン」から「メイド喫茶のメイドさん」まで、音の世界にようこそ!

「メイド喫茶のメイドさん」「ポケモン」「名探偵コナン」などの身近な題材を用いて、音と意味の関係(音象徴)を楽しく学べる本です。音声学の基礎から始めて、分析に必要な数学や統計の詳しい内容も、理系・文系を問わずわかりやすく解説しています。さらに、参考文献や練習問題、補足資料がまとめられたウェブサイトも充実しており、学習をサポートしてくれます。

NO IMAGE

『言い間違いはどうして起こる?』(寺尾 康、2002年、岩波書店)

「本物の」言い間違いを探しに行こう!

会話の中で、ふと言い間違いをしてしまい、慌ててしまった経験はありませんか? 間違った本人はやけにどぎまぎしてしまうのに、聞き手の方は気にしていなかったり、笑って済ませたりということがあります。言い間違いを観察することで、私たちは本来言うはずだった正常なことばについて考えることができます。さらに、どうして言い間違えるのかについても本書には書かれています。



『日本語の発音教室—理論と練習』(田中 真一・窪田 晴夫、1999年、くろしお出版)

日本語の発音にとって大切なことって何?

私たちがなにかことばを発するとき、どのように音を出しているかについて、意識している人はほぼいないでしょう。それでも私たちは日本語を話しています。母音と子音の話から、日本語のリズム、アクセント、イントネーションまで、日本語の発音に関する話が本書に詰まっています。これを読めば、私たちが具体的にどのように音声を作り出しているのかを理解できるでしょう。

NO IMAGE

文字・表記

『漢字ハカセ、研究者になる (岩波ジュニア新書 950)』 (笹原 宏之、2022 年、岩波書店)
「漢字ハカセ」と「漢字の研究者」は、どこが違う？

「漢字」に魅せられた一人の少年がやがてプロの研究者になるまでに、一体どんな道を歩んできたのでしょうか。何を楽しみ、何に苦しんだのでしょうか。日本語における漢字研究の第一人者である著書が、その道のりを語ってくれます。



『振仮名の歴史 (岩波現代文庫)』 (今野 真二、2020 年、岩波書店)

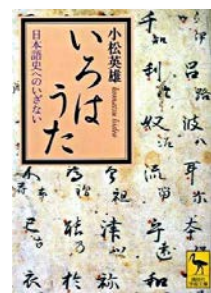
「運命」「瞬間」……振仮名があれば何でも possible !

難しい漢字の読みを示すためのもの……という印象が強い「振仮名」ですが、小説や歌詞カードなどで面白い使用例を見かけたことがある人も多いのではないのでしょうか。歴史的にも、振仮名は多様な使われ方をしてきました。本書では豊富な例をもとに、文字と言葉が持つ複雑な関係を学ぶことができます。



『いろはうた—日本語史へのいざない (講談社学術文庫)』 (小松 英雄、2009 年、講談社)
「いろは歌」が導く、「文献学」という方法。

古文を習った人にはお馴染みの「いろはうた」にも、“何のために作られたのか？” “最初から 47 字だったのか？” “どのように利用されたのか？” 等々、様々な謎があります。本書は「いろは歌」が持つそうした謎に取り組むことで、過去の文献を元に考察を進めていく方法を示してくれます。



語彙

『オノマトペ 擬音語・擬態語の世界 (角川ソフィア文庫)』

(小野 正弘、2019年、角川書店)

マンガやアニメを豊かにする「オノマトペ」のお話、小さな本にギッシリ詰まっています。

「ゴロゴロ」「ピカピカ」「グシャッ」…日本語には音や物の様子を表す「オノマトペ」がたくさん存在し、普段の会話でも、漫画やアニメでもよく使われています。そんなオノマトペがあるからこそ、日本語で幅広い表現をすることができます。本書は、時にはマンガ、時には方言、時には古典に触れながら、オノマトペの奥深い世界を面白おかしく、でもしっかり学問として知ることができます。



『語彙力を鍛える—量と質を高めるトレーニング (光文社新書)』

(石黒 圭、2016年、光文社)

真の語彙力を鍛える方法、教えます。

語彙力とはなんでしょう。語彙力を鍛えるためにはどのようにすればよいのでしょうか。一語彙力は、頭の良さと直結して考えられます。それでは、語彙力のある人は、どのくらい語彙を知っていて、どのように語彙を知っているのでしょうか。本書では、語彙力について、「量」と「質」の両面から強化する方法を教えてください。さあ一緒に、語彙の数を増やし、語彙の質を高めるトレーニングを始めましょう！



『新語はこうして作られる』 (窪園 晴夫、2002年、岩波書店)

なんだ、若者ことばも意外とフツーじゃん。

日常の中では、多くのことばが生まれて消えていきます。生まれてくることばは、0から作り出されるのでしょうか。実は、日本語では昔から、新しい語を生んでは使ってを繰り返してきました。そして、現代の新語にいたるまで、そこには共通の造語規則を見つけることができます。本書には、日常の語の由来や作り方が載っています。本書を読めば、造語規則を支える言語の原理を知ることができます。



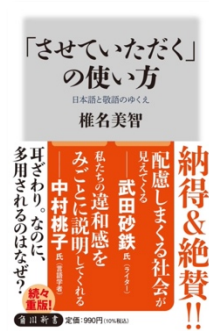
文法・文章

『「させていただく」の使い方—日本語と敬語のゆくえ (角川新書)』

(椎名 美智、2022 年、KADOKAWA)

その使い方、大丈夫？ 説明させていただきます。

ことばの乱れを取り上げる人や記事はよく見かけますが、「させていただく」も近年非常によく取り上げられるもののひとつです。「ポイントを進呈させていただきます」「警察へ通報させていただきます」—これらは単なる誤用なのでしょうか。本書では、「させていただく」が使用されるようになった背景的な要因を示すとともに、そこにかかわる対人コミュニケーション、敬語の変化についても解説してくれます。



『日本語の〈書き〉方 (岩波ジュニア新書)』 (森山 卓郎、2013 年、岩波書店)

この思いを、文字にして伝えたい。

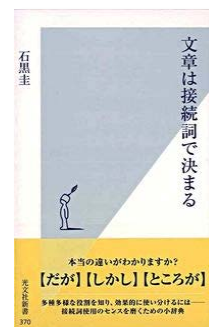
文章を「書く」ことが苦手な人は多いのではないのでしょうか。文章にはいろいろな種類がありますし、その種類によって書き方が異なります。重要になってくるのは、「言葉」に注目することです。本書では、前半部で言語の基礎的な内容を学び、後半部で文章の種類に応じた書き方について、言語表現を通じて考えていきます。きっと文章を書くときの手助けになってくれます。



『文章は接続詞で決まる (光文社新書)』 (石黒 圭、2008 年、光文社)

接続詞って誰のためのもの？てか、どんな役割があるのだろうか？

接続詞は書き手の思考を整理し、文章を展開させたいときに使います。一方、読み手の理解のためにあるものでもあります。その働きを六つに分類し、たくさんの例を挙げて解説しています。また、話しことばの接続詞「じゃあ」「てか」「だって」などにも注目しています。話すときに好んで使う接続詞から隠れた性格がわかります。接続詞の魅力を知ることのできる一冊です。



歴史

『**中高生からの日本語の歴史 (ちくまプリマー新書)**』 (倉島 節尚、2019 年、筑摩書房)

”古文”の日本語は、どのようにして”今”の日本語になったのだろう。

古文の授業で習う『源氏物語』や『枕草子』が、今から 1000 年前の日本語で書かれているのはご存知の通り。ではその日本語は、1000 年掛けてどのように変化して、現在私たちが使う日本語の姿になったのでしょうか。本書では「音韻」「表記」「文法」等、言語を形作る色々な要素から、その歴史的变化を学ぶことができます。



『**日本書紀の謎を解く—述作者は誰か (中公新書)**』 (森 博達、1999 年、中央公論新社)

『日本書紀』の「森」へ、その謎を解き明かそう！

「真実はいつも簡単だ」と結ぶ本書は、『日本書紀』という「森」成立の謎を解き明かすものです。漢字の音韻や語法を分析することで、中国人が中国語で書いた α 群と、日本人が日本語化した漢文で書き継いだ β 群が混在していることが見えてきます。本書を手にも「森」を探検し、各巻の性格や成立の順序を合理的に解釈していきましょう。



『**日本語の年輪 (新潮文庫)**』 (大野 晋、1966 年、新潮社)

何気なく使っているその語にも、長くて深い歴史がある。

「わびさび」という言葉がありますが、では「わび」と「さび」はそれぞれどのような状態を指しているのでしょうか。万葉集以来の実際の用例を丁寧に見つめることで、それぞれの意味と両者の違いが見えてきます。本書では、身の回りの様々な語を採り上げて、それらが元々どのような意味を持っていたのか、そしてどのように意味を変えていったのかを示しています。



方言

『ものの言いかた西東 (岩波新書)』 (小林 隆・澤村 美幸、2014 年、岩波書店)

なんで「おはよう」って返してくれないの？—それって実は地域差です

方言やことばの地域差というと、あるものをこの地域ではなんと呼ぶかということや、発音がどのように違うかということを思い浮かべがちです。実は、どのような場面でどのような発言をするのか、そういったことにも地域差がみられます。この本では、さまざまなことばの運用の地域差を示してくれます。何気なく使っている言い回しやことばの振る舞いも、もしかすると方言かもしれません。



『方言は気持ちを伝える (岩波ジュニア新書)』 (真田 信治、2007 年、岩波書店)

日本語はひとつではない。

方言を話す人が減っているというのは、伝統的な方言においてはその通りです。しかし、方言は消えていくだけなのでしょうか。近年では、方言をアレンジした新しい表現、方言と標準語の中間のような表現など、新しいバリエーションが生まれています。そして、それらは日本語の多様性の一翼を担っています。本書は、そのような多様性が、私たちの言語生活を豊かにしてくれていることを教えてくれます。



『全国アホ・バカ分布考—はるかなる言葉の旅路 (新潮文庫)』 (松本 修、1996 年、新潮社)

あなたはバカと言いますか？アホと言いますか？—いいえ、タワケです

西日本を中心によく知られているテレビ番組『探偵！ナイトスクープ』。実は大学の方言分布の授業でほぼ必ずといっていいほど取り上げられる有名な番組です。「東はバカで、西はアホ。ではその境界はどこ？」こんな素朴な疑問を調べたら、そんな単純な話ではありませんでした。番組の裏舞台や調査の様子がよく分かり、細かな調査結果も載っている、学術書じゃないけど学術書みたいに学べるおもしろい一冊です。



言語作品の言葉

『ヴァーチャル日本語 役割語の謎 (岩波現代文庫)』 (金水 敏、2023 年、岩波書店)

「拙者は〇〇でござる」→侍か忍者だ！……でも言葉だけで分かるのはなぜ？

「そうじゃ、わし買ったんじゃわい」という文を見ると、姿を見ていなくても「これは老人が話した言葉だな」と察しが付きます。面白いのは、このような話し方をする老人を実際には知らないにもかかわらず、そのような推測が働くのです。本書ではこうした、話し手のイメージを喚起する表現「役割語」について、その特徴や歴史を学ぶことができます。



『おいしい味の表現術 (インターナショナル新書)』 (瀬戸 賢一編、2022 年、集英社)

あなたはこの「おいしさ」をどう表現するのだろうか

「うまっ、ヤバッ、コレナニ？」—美味しさを伝える際に、どのような表現を使っていますか？ SNS などでは発信される写真の質は上がっているのに、その味を伝える表現はどうでしょう？ 本書には、「おいしさ」を伝えるさまざまな表現が詰まっています。ぜひ手に取り、自分なりのことばで美味しさを表現してみませんか？



『日本語は日本人をどうみているか』 (梶山 洋介、2006 年、研究社)

読み終わったとき、あなたの心はきっと「晴れやか」になる

「ついに才能が花開いた。」「ボクサーの卵」などのように、人間を表すために、「人間以外のもの」で比喩的に表すことが日常的に多くあります。本書では、「植物」「鳥」「天気」などによる比喩表現について様々な例を示し、そこからそれらを通して人間を見るという「ものの見方」を教えてください。まずは本書を手に取り、このような表現を楽しんだり、「ものの見方」から日本語を見るおもしろさを感じたりしてみてください。



日本社会と言葉

『街の公共サインを点検する—外国人にはどう見えるか』

(本田 弘之・岩田 一成・倉林 秀男、2017年、大修館書店)

その辺にある看板から考える異文化コミュニケーション。

街を歩いていると、たくさんの看板やポスターがあります。日本人は読まなくても分かるようなものでも、外国人にとっては大切な情報源であることが多いです。でも、その看板、外国人が見たらちゃんと情報が伝わるように書かれているのでしょうか？外国語訳は正しい？誤解されるようなことは書いていない？そのイラストは外国人が見ても意味が分かる？視点を変えると、今まで見えてこなかったものが見えるかもしれません。

 NO IMAGE

『やさしい日本語—多文化共生社会へ (岩波新書)』 (庵功雄、2016年、岩波書店)

「容器をご持参の上、中央公園にご参集ください。」これ、やさしく言い換えられますか？

「やさしい日本語」を知っていますか。日本語を母語としない外国人に対して、災害時などに情報を提供する方策として、さまざまな自治体の情報発信に活用されています。しかし、情報を必要とする状況は災害時だけでしょうか。情報を必要としているのは外国人だけでしょうか。本書は、多文化共生社会へ向かう中で、ことばがどのように貢献できるかを示してくれます。



『日本語は「空気」が決める—社会言語学入門 (光文社新書)』

(石黒 圭、2013年、光文社)

あなたはことばをどっちの基準で選ぶ？—A. 正しさ B. ふさわしさ

「KY (空気が読めない)」ということばがあるように、日本語では、やたらと「空気」が重要になります。この「空気」次第で、私たちのコミュニケーションがうまくいくかどうか左右されたりもします。本書では、この「空気」について、ことばと社会という外部環境の関係を通して考えていきます。その場や状況に合った「ふさわしさ」について一緒に考えてみましょう。



日本語による理解・思考・表現

『ことばと思考 (岩波新書)』 (今井 むつみ、2010年、岩波書店)

僕たちは言語が違ってもわかり合えるだろうか？

日本人と日本語以外を話す外国人の、ものの見方や考え方は同じでしょうか。本書は、「異なる言語の話者は、世界を異なる仕方で見ているか」という問いに、さまざまな実験データを基に考えるものです。また、子どもの思考の発達の研究をとおして、言葉の学習とものの見方や考え方の変化を探ります。異なる言語の話者を理解したい、理解し合いたいと思っている人は本書をぜひ手に取ってみてください。



『ことばの力を育む』 (大津 由紀雄・窪田 晴夫、2008年、慶應義塾大学出版会)

私たちはまだ、日本語を知らない。

ことばは私たちの生活に密接にかかわっており、水や空気のようになくてはならないものです。しかし、みなさんはそのことばどのくらい知っていますか。この本では、ことばについて意識的に探るための気づきを与えてくれます。ことばの多様性、文の仕組み、ことばの規則と例外など、さまざまなことばの事例をみていくことで、ことばについての興味を深めることができるはずです。



『もし「右」や「左」がなかったら一言語人類学への招待』

(井上 京子、1998年、大修館書店)

あなたの常識は、彼らの非常識。

日本語によることばの切り取り方が別の言語のそれと同じであるとは限りません。例えば、空間の中の位置関係を把握するのに、「左右」や「東西南北」を使わない言語があります。位置関係を正確に伝えるためには、相手も自分と同じことばの切り取り方をしている必要があります。「左右」を持たない言語では、どのように位置関係を伝えるのでしょうか。本書を読めば、言語と文化の関係が見えてきます。



外国語との比較や翻訳

『翻訳できない世界のことば』

(エラ・フランシス・サンダース／前田 まゆみ 訳、2016年、創元社)

ことばにできないこの気持ちを、言い表せる言語はあるだろうか？

ある言語を別の言語に翻訳するとき、ちょうどよい語や表現が見つからないことがあります。または本来表しているニュアンスが、うまく表現できないことがあります。実はすべての言語が、同じものやこと、事象などを表すことばを均一に持っているわけではありません。本書には、英語に翻訳するとしたら一語や二語では表せない世界の言語の語が集められています。



『相席で黙っていられるか—日中言語行動比較論』 (井上 優、2013年、岩波書店)

「日本人は中国人が間断なくしゃべることに驚くが、中国人は日本人がいちいちあいつちを打つことに驚く」(本書 p33 より)
……言語の特徴は、“比較”することで見えてくる！

言語を分析する上で、何かと「比較する」というのは極めて重要な方法です。「日中言語行動比較論」の副題を持つ本書では、身近な表現を例にして日本語と中国語、また韓国語などとの比較を行い、そうした表現の背景にどのような発想があるのかを論じていて、「比較」という方法の面白さが学べます。



『日本語と外国語 (岩波新書)』 (鈴木 孝夫、1990年、岩波書店)

orange はオレンジとは限らない!?! □ 人はことばでどうやって世界を把握しているのだろう

orange cat と聞いて、オレンジ色の猫を思い浮かべますか？実はオレンジ色ではなく赤茶色。虹の色は日本では七色ですが、アメリカでは六色です。民族によっては二色や三色のこともあります。虹の色の数や色彩の認識の仕方は文化と深く結びついています。辞書の記述ではわからないことを探ります。外国語との比較を通して言語を考える1冊です。



デジタル技術を用いた言葉の分析

『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』（中俣 尚己、2021年、ひつじ書房）
そのことは、実際にどのくらい使われているの？

なにか気になる語や表現があったとき、まずなにを手に取り、調べるでしょうか。辞書を見るのが、意味を知りたい場合には定石です。それでは、その語や表現が実際の文章や会話の中でどのように使われているのかを知りたいときには、なにを使って、どのように調べればいいのでしょうか。本書を読むことで、国立国語研究所が開発した検索アプリケーション「中納言」と、それを活用して大規模データベースから知りたい情報を得る方法が身に付きます。



『ヒトの言葉 機械の言葉—「人工知能と話す」以前の言語学（角川新書）』

（川添 愛、2020年、角川書店）

読むなよ、読むなよ、絶対に読むなよ

AIは人と同じように言葉を理解し、言葉を使いこなすことができるのでしょうか。もしくは、近い将来、できるようになるのでしょうか。この問題に答えを見出すためには、「言葉を理解するとはどういうことか」「そもそも言葉の意味とは何か」といったことをまずは考える必要があります。本書は、人の言葉と機械の言葉について考えるヒントを与えてくれます。



『近代書き言葉はこうしてできた』（田中 牧郎、2013年、岩波書店）

古文にはない「だ」「である」は、どうやって生まれた？

近年、「コーパス」という言語分析用のデータベースを用いて、大量のデータをもとにして日本語研究ができるようになりました。本書ではそのコーパスをもとに、「言文一致運動」で知られる近代において書き言葉がどのように変化してきたかが分析されています。



日本語の研究手法

『子どもに学ぶ言葉の認知科学(ちくま新書)』(広瀬 友紀、2022年、筑摩書房)

子どもがことばを身に付ける過程を追体験する

子どものテストのおもしろ解答がSNSをにぎわすことがあります。多くの場合、笑いのネタとして紹介されますが、なかには「なぜこれがバツなのか」と議論を呼ぶものがあります。そうした解答に注目すると、子どもがことばをどのように認識して、言語化しているのかが見えてきます。「問い」には正解していないけれど、大丈夫！ 子どもはしっかりとことばを学んでいますよ。



『自由研究 ようこそ! ことばの実験室(コトラボ)へ』(松浦 年男、2021年、ひつじ書房)

えっ? ことばって「実験」できるの? どうやって?

日本語を中心としたことばの「実験」を通して、さまざまなことばの「しくみ」を発見する、その道筋を示してくれる本です。小学生向けに書かれていますが、データを集めて日本語の分析をしようとする中高生も活用できる内容がたくさんあります。テーマ探し中の人には身近な言語現象がどういう研究になるのかのヒントに、テーマをある程度決めている人には実験方法やまとめ方の参考になるでしょう。



『〈アクティブ・ラーニング対応〉日本語を分析するレッスン』

(野田 尚史・野田 春美、2017年、大修館書店)

ってか、この本ヤバイ! マジ興味引かれる的な?

「日本語を分析する」と聞くと、堅苦しい理論や分析作業を想像するかもしれません。しかし、身近にある日本語、馴染みのあることばからも、日本語の奥に潜む法則性を考えることができます。「若者ことば」や「ことば遊び」、「マンガのことば」に「漫才のことば」一本書では、知識を身につけるといよりも、自分で考え、自分で答えを見つけ出すことを目指しています。さあ、一緒に日本語を楽しみましょう!



身近な言葉の問題

『フィールド言語学者、楽ごもる』（吉岡 乾、2021 年、創元社）
外で調査をする言語学者が外に行けなくなった。どうする？

外に出て調査をするフィールドワークを行うことで海外の言語を研究していた著者が、コロナ禍でフィールドワークに行けなくなった時のお話。この解説を書いている私もフィールドワークで言語研究をしているので、他人事ではありません。外で調査できないといっても、言語のことはいつも考えてしまいます。普段の生活にも言語の疑問はいっぱい。家の中でフィールドワークをしてしまう、そんな一冊です。



『日本語の大疑問—眠れなくなるほど面白いことばの世界 (幻冬舎新書) 』

(国立国語研究所 編、2021 年、幻冬舎)

研究者が本気で答えてみた。(たぶん一番楽しんでる。)

日本語に関するさまざまな疑問に研究者たちが答えた本です。約 40 の疑問の範囲は、日本語の発音・語彙・文法・表記だけでなく運用(使い方)や歴史、他言語にも及びます。知識を得る本として読んでいいのですが、さまざまな現象の背景にある日本語の「しくみ」(規則性)を研究者がどのように捉えているかも楽しんでみてください。なお、同様の Q&A は、編者の国立国語研究所が運営する「[よくあることばの質問](#)」でたくさん読めます。

NO IMAGE

『問題な日本語 1～4 (問題な日本語シリーズ)』

(北原 保雄 編、2004～2011 年、大修館書店)

『問題な日本語』に、問題あり！

よく「この日本語は間違っている」という話題が持ち上がりますが、どうしてそのような言い方が生まれるのでしょうか。本書では、その言い方が誤用であったとしても、なぜその誤用が生まれてきたのか、その要因はなんなのかに焦点をあてています。あなたの気になる日本語についても、きっと解説されているはずです。日本語に興味のある人は、まず手に取ってみてください！

